

10月28日(水曜日)「名誉欲」

【新改訳 2017】

ルカ 11・43

「わざわざいだ。パリサイ人。おまえたちは、会堂の上座や、市場
であいさつされることが好きです。」

マタイのほうでは、これに「人から先生と呼ばれたりすることが好きです。しかし、あなたがたは先生と呼ばれてはいけません」と付け加えられています(23・7、8)。日本のように、だれでも先生と呼ぶ習慣と、どう関係づけられているかは別に考えられなければならないでしょう。しかし、会合に出ると席順が気になり、人々の前では先にあいさつされることを願う心は、だれにもあるのではないのでしょうか。名誉心があるからです。パリサイ人たちを笑う資格は、私たちにはありません。もっとも、筆者自身は、スーパーなどで、園児から「園長先生」と大声で呼ばれたり、手を振られたりすると、名誉心とは違った、心理状態になってしまう小心な面がありますが。

不思議です。私たちは、自分はいったい何者だと思っているのでしょうか。罪人のかしらであることを覚え、謙虚でありたいも

のです。

～祈り～

主よ。本当の謙遜を学ばせてください。自分では、自分の名誉欲をどうすることもできません。御霊の実を結ばせてください。

【学びのために】。

箴言18・12ほか参照。